

2025 年 5 月 9 日(金)9:00 から CRT スタジオで収録

「ソフトパワー」とは

開倫塾

塾長 林明夫

5 月 6 日に、アメリカのハーバード大学行政大学院(ケネディスクール)の学長をお務めで、軍事力など「ハードパワー」に頼らない「ソフトパワー」の重要性を提唱、アメリカのみならず、日本はじめ多くの国々に影響を与えた「ジョセフ・ナイ先生」がご逝去されました。そこで、今回の「開倫塾の時間」では、ジョセフ・ナイ先生が提唱なさった「ソフトパワー」とは何かについて、皆様とご一緒に考えたく存じます。

1. 「ソフトパワー」とは

(1) 「強制や報酬ではなく魅力によって望む結果を得る能力」

(2) 「国の文化」「政治的な理想」「政策の魅力」によって生まれる

○他の国の人たちがアメリカの理想に憧れ、アメリカが望むものと同

じ結果を望むようにすることができれば、他国の人たちをアメリカが求める方向に動かすための飴(あめ)と笞(むち)を使う必要は少なくなる。

(3) 魅力はつねに強制より効果的であり、民主主義・人種・個人の機会といった価値は、きわめて魅力的である。



2. (1) ソフトパワーは、伝統的な勢力均衡的な政治での軍事的な勢力圏をはるかに越えて影響力を与えられる

(2) だが、アメリカが傲慢に振る舞い、本来の価値が伝わる真のメッセージを破壊すれば、魅力が嫌悪感に一変しかねない

(3) (アメリカが)意のままに戦争を行っていけば、他国は離れていき、平和の時期に勝利を収めるために不可欠な魅力を他国から得られなくなる

3. (1) 平和の時期に勝利を収めるためには、アメリカは戦争で勝利を収めるためにハードパワーを行使したのと変わらないほどの巧みさで、ソフトパワーを行使しなければならない

(2) 平和の時期に勝利を収めるのは戦争で勝利を収めるよりもはるかに困難な仕事であり、平和の時期に勝利を収めるにはソフトパワーが不可欠である

(3) 「ハードパワー」「ソフトパワー」のどちらかだけを重視するのは賢明でない。両者をもっと重視するのが「スマートパワー」である

* ジョセフ・ナイ著「ソフト・パワー、21 世紀国際政治を制する見えざる力」日本経済新聞社、2004 年 9 月 13 日刊

○「軍事力」「経済力」だけが国家のパワーではない。国際政治の新たな枠組みを提示する概念が「ソフトパワー」

4. 「ソフトパワー」とは

- (1) ① 自国が望む結果を他国も望むようにする力
 - ② 他国を無理やり従わせるのではなく、味方につける力
 - ③ 人々の好みを形作る能力に基づく
- (2) ① 模範を示したり自分が望む行動をとるように人々を誘導
 - ② 例えば、経営者が示す価値観に従業員が賛同する
- (3) ① 人格・文化・政治的価値観・政治制度の魅力、正当性があり、倫理的に正しいとされる政策など無形のものに関連することが多い
 - ② 他人が従いたくなる価値観を指導者が代表していれば、指導に必要なコストは低くなる
 - ③ 他国の人々に夢や希望を与える、他国を引きつけ意見を動かす能力

* 国際政治の課題を設定する能力



5. 経済援助や平和維持活動など魅力ある目標を国益のひとつとして掲げることは、軍事力や経済力から予想される以上の政治力をもつ。平和交渉を仲介する政策は、世界共通の価値観を代表する国とみられ、その国の「ソフトパワー」が強化される



6. 「ソフトパワーの源泉」

- (1) 「文化」…他国がその国の文化に魅力を感じる
- (2) 「政治的な価値観」…国内と国外でその価値観に恥じない行動をとっている
- (3) 「外交政策」…正当で敬意を払われるべきものとみられる



7. 「文化」とは

- (1) 「社会にとっての意味を確立する価値観と活動」
- (2) 高級文化…文学・美術・高等教育

ある国の文化の価値観に普遍性があり、その国が他国と共通する価値と共通の利益を追求する政策をとっていれば、その魅力とそれが生み出す義務感によって自分が望む結果を獲得できる可能性が高くなる
- (3) 大衆文化…興奮を呼び、数奇で、豊かで、強力で、流行の震源地で時代と革新の最前線にあるもの。文化は人的な接触や訪問、交流によって伝わる、但し、文化はみずからの意思で受け入れ周囲に伝える人たちがいることが重要になる。自国に魅力があり漠然としていても幅広い影響を与えていればその間接的な効果によって、交渉の場で好ましい結果を得ようとするときに大きな要因になることがありうる

<参考図書>

ジョセフ・ナイ著「ソフト・パワー」日本経済新聞社 2004 年 9 月 13 日刊より

